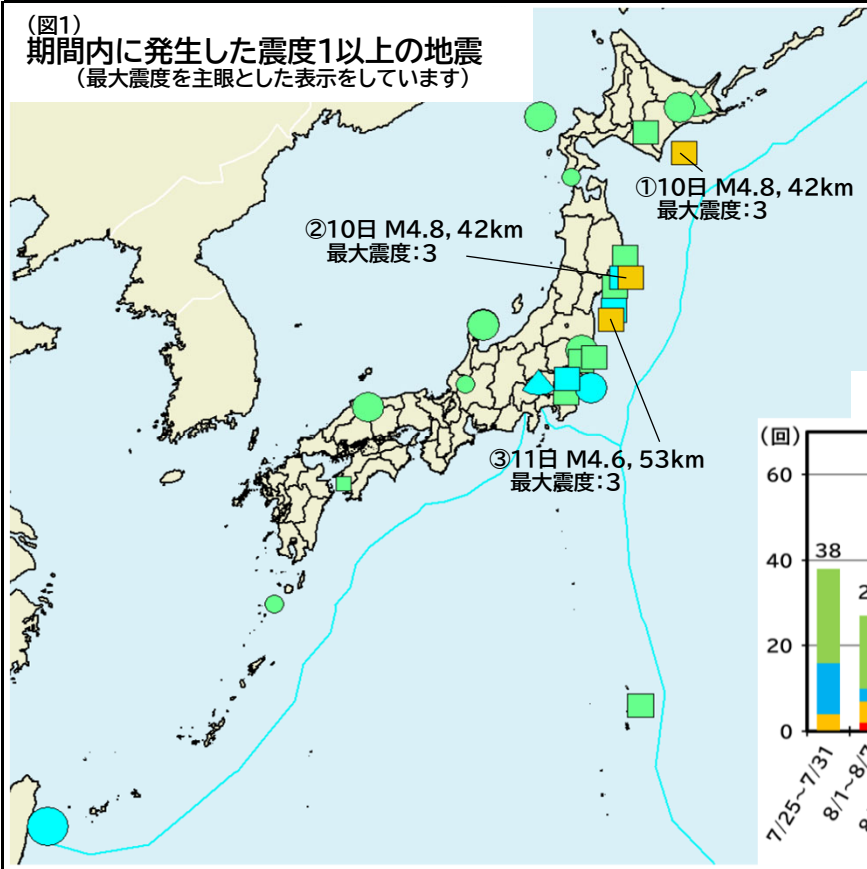


この期間の最大震度は3

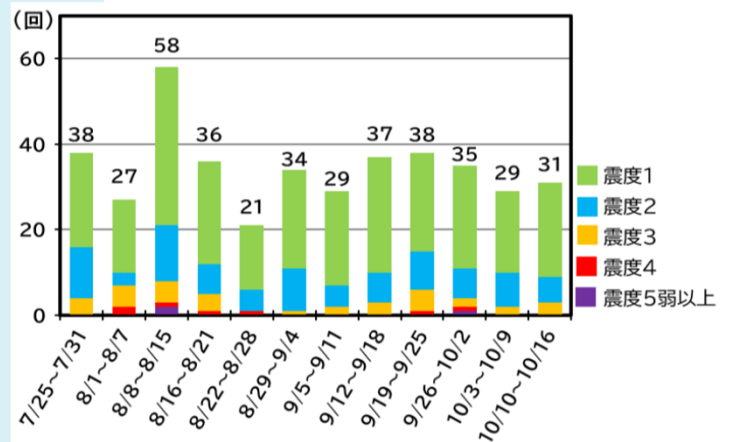
本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)

(図1) 期間内に発生した震度1以上の地震 (最大震度を主眼とした表示をしています)



最大震度	マグニチュード	深さ(km)
震度5弱以上	7.0	0
震度4	5.0	30
震度3	3.0	90
震度2		
震度1		

(図2) 1週間毎の最大震度別地震発生回数



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

■ この期間、震度1以上の地震が31回発生。最大震度は3。■

- ①10日09時03分に十勝沖で発生した地震(M4.8、深さ42km)により、北海道広尾町で震度3を観測したほか、北海道東部と青森県で震度2~1を観測。
- ②10日09時26分に宮城県沖で発生した地震(M4.8、深さ42km)により、岩手県一関市で震度3を観測したほか、岩手県から茨城県にかけて震度2~1を観測。
- ③11日20時28分に福島県沖で発生した地震(M4.6、深さ53km)により、福島県檜葉町及び大熊町で震度3を観測したほか、東北地方及び関東地方北部で震度2~1を観測。

トピックス

■ 北海道・三陸沖後発地震注意情報 ■

北海道から東北地方にかけての「日本海溝・千島海溝沿い」でM9クラスの巨大地震が発生した場合、死者が最大20万人近くになるとの被害想定が公表されている。この地域ではM7クラスの地震が発生した後、数日程度の間、さらに規模の大きなM8クラス以上の地震が続けて発生する可能性があるため、想定している地域でM7以上の地震が発生した場合に、続いて発生する可能性のある地震に備えるための情報を12月から発表すると内閣府が発表した。

・情報の名称

北海道・三陸沖後発地震注意情報

・情報の目的

M7クラスの地震が発生した後、数日程度の間、さらに大きなM8クラス以上の大規模な地震が発生する可能性がある。この後発の地震に対する注意を喚起し被害を軽減するため。

・どのような場合に情報が発表されるのか

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とそれに影響を与える範囲(図3の橙線内)で、M7.0以上の地震が発生した場合に、1時間半後くらいを目途に発表。

・情報発表の対象となる地域

最大クラスの地震により津波高3m以上、震度6弱以上が想定される北海道、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の対象市町村。

・情報が発表された場合にとるべき防災対応

地震発生後1週間程度、平時よりも巨大な地震の発生に注意し地震への備えを徹底。家具の固定等の「日頃からの地震への備えを再確認」に加え、揺れを感じた場合などに、ただちに避難できる体制の準備。「事前避難」は求めない。

・情報が発表されると推測される頻度

過去の地震発生状況から判断すると、概ね2年に1回程度発表されると推測される。



図3: 橙線内でM7.0以上の地震が発生した場合に発表される(橙線は内閣府資料を基に作成)